



活動報告



第190回水道技術管理者協議会（2月2日）

はじめに、議題として、令和7年度設定議題「①大口径送水管のルート選定基準」、「②緊急時用連絡管の基本協定とその運用について」、「③技術職員の不足に対応した積算業務等への取組について」、「④配水管移設工事に係る



原因者への費用負担請求について」、「⑤ DX 技術を用いた漏水調査導入後の効果検証方法について」、「⑥管路の漏水調査について」、「⑦マッピングシステムのクラウド化について」、「⑧ NTT 通信回線の一部サービス終了に伴う対応について」、「⑨経年管の対策について」、「⑩管路 DB 方式を採用した工事発注について」、「⑪電蝕防止の工事及び点検業務の業者選定、見積もり、単価及び歩掛の採用について」、「⑫水道事業所（水道業者）の確保について」の意見交換を行った。

続いて、報告事項として事務局より「①水道メーターの検定有効期間見直しの検討状況について」、「②水質応援プログラムの事業開始について」、「③水道事業ガイドライン（PI）のアンケート調査結果について」、「④『水道の基盤強化ミーティング』の実施状況」、「⑤その他」について、報告を行った。

第208回工務常設調査委員会（2月3日）

冒頭、本荘谷工務部長から開会挨拶があった。

その後、藤川委員長の進行の下、「JWWA 規格の改正について」、「JWWA 規格の検討開始について」審議を行い、了承された。



この他、「水道維持管理指針改訂特別調査委員会の検討状況について」、「水道メーター検定有効期間見直しの検討状況について」、「応急給水等の様式のデジタル化に向けた検討ワーキンググループの進捗状況について」、「配水管工技能講習会における大口径管会場の新規開催について」、「水質応援プログラムの事業開始について」、「水道事業ガイドライン（PI）のアンケート調査結果について」、「水道の基盤強化ミーティング」の実施状況について、「令和7年度全国会議・2025広島水道展における体験型水道イベント実施報告」について事務局より報告を行った。

加えて、水道事業体委員による令和6年能登半島地震の教訓を踏まえた給水装置工事の取り扱いについて情報交換が行われた他、令和7年青森県東方沖地震の被害状況について、札幌市、仙台市より報告があった。

第53回認証審査委員会（2月3日）

はじめに、審議事項（1）「正・副委員長との互選」が上程され、委員長には麻布大学の大河内委員、副委員長には東京都水道局の佐山委員を選任した。



次に、審議事項（2）「給水用具等の認証要件の改正について」が上程され、

質疑応答及び審議の結果、検査施行要綱等との整合性を確認し、必要があれば事務局案を修正することで了承された。

続いて、報告事項（1）「認証登録の一時停止について」及び報告事項（2）「2025年度試験検査の結果」を報告し、閉会した。

水道技術者専門別研修会【給水装置部門】（2月3日～6日）

当該部門の水道業務に従事する実務経験概ね3年以上の技術系職員の方々89名の参加を得て、「給水装置概論」、「給水装置の構造及び材質の基準」、「給水管及び給水用具」、「指定給水装置工事事業者制度」、「給水装置の設計・水理計算演習」、「給水装置工事の施工等」、「給水装置の維持管理～事事故例とその対応～」について研修を実施した。

浄水場等設備技術実務研修会（東京会場第7回：2月3日～6日、第8回：2月17日～20日、第9回：2月24日～27日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々24名（東京会場第7回：14名、第8回：7名、第9回：3名）の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用し、ポンプ実流試験装置を使った実習等、機器類の運転・操作を体験するとともに、設備機器の保守・管理の実務について研修を実施した。

水道施設耐震技術研修会（大阪会場：2月4日～6日）

水道施設の耐震設計業務等に携わるの方々75名の参加を得て、「水道施設の耐震化の概要」、「総則（水道施設の地震対策、耐震設計の基本）」、「構造物別の耐震計算と性能照査」、「水管橋および水路橋の耐震計算と性能照査」、「水道施設における建築物の耐震計算法」、「機械電気設備の耐震設計」、「池状構造物」について研修を実施した。

第44回広報専門委員会（2月4日）

はじめに、「人材確保に向けた水道界の魅力向上に繋がる広報手法の検討について」の審議を行い、闊達な意見交換の後、委員意見を反映の上、事務局案のとおり進めることについて了承された。



次に、「水道料金改定に向けた広報手法について」の審議を行い、「水道料金改定業務の手引き」の改訂案について闊達な意見交換の後、委員意見を反映の上、事務局案のとおり進めることについて了承された。

最後に、事務局より、「令和7年度全国会議・2025広島水道展における体験型水道イベント実施報告」、「水道の基盤強化ミーティングの実施状況」を報告した。

水道 GLP 認定証授与式（2月6日）

水道 GLP 認定委員会で新規認定が決定した和歌山市企業局（認定番号：JWWA-GLP155）の水質検査機関の認定証授与式を日本水道協会理事長室において行った。



第799回抄録委員会（2月6日）

テーマ別抄録及びオムニバス記事の作成について審議を行った。

第60回 IWA 日本国内委員会（2月9日）

はじめに、審議事項「第19回 IWA 汚泥管理に関する国際会議組織委員会から提案された寄附金の取扱いについて」を上程し、当該国際会議組織委員会から IWA 日本国内委員会に対し申し出のあった寄附金の活用方法を決定した。

続いて、報告事項として、「IWA 理事会参加報告」、「IWA 統計・経済スペ

シャリストグループ参加報告」、「Japan-YWP の活動状況について」など、各担当者から最近の IWA に関する活動内容について報告が行われたほか、事務局より2026年10月にグラスゴーで開催される IWA 世界会議・展示会について情報共有を行った。



第116回経営調査専門委員会（2月13日）

はじめに、「水道料金改定業務の手引き」の改訂について審議し、活発な意見交換を行った後、委員意見を反映の上、事務局案のとおり進めることについて了承された。

また、今後のスケジュールについて、3月17日の事務常設調査委員会での審議を経て、年度内に公表予定とする旨、事務局より説明を行った。



第196回水質試験方法等調査専門委員会（2月16日）

内山委員長進行のもと、前回委員会の議事要旨の確認を行った。

その後、無機物、有機物、微生物・生物の各部会に分かれ、それぞれの検討課題に関して討議した。

最後に、宇津木環境省水・大気環境局環境管理課水道水質・衛生管理室水道水質基準係長から、水道水質管理の最近の動向に関する情報提供があった。

第214回水道 GLP 認定委員会（2月17日）

水道 GLP 認定について審議した結果、株式会社北陸環境科学研究所（JWWA-GLP053）及び平成理研株式会社（JWWA-GLP054）の認定更新を決定した。更に滋賀県企業庁（JWWA-GLP123）、株式会社エステム（JWWA-GLP143）及び大分市上下水道局（JWWA-GLP153）の認定維持を決定した。

第46回府県営水道連絡協議会（2月17日）

本協議会のメンバー事業者から提案された情報交換事項、「地方公営企業における発信者名（知事名）の取扱について」、「水道事業における固定資産管理の方法について」、「損益勘定職員と資本勘定職員の配置について」、「料金改定について」、「自動口座振替（自動引き落とし）による支払について」、「工業用水道との施設・管路共用化について」、「管路の更新ロットについて」、「AIの活用・導入検討状況について」、「浄水汚泥の有効利用について」、「配管完了後における管路の水圧試験について」、「水管橋における塗装の耐用年数について」、「運転監視業務の外部委託範囲について」、「設備点検業務委託の積算について」の、計13題についてそれぞれ情報・意見交換を行った。

第1043回会誌編集委員会（2月19日）

本誌3月号の編集方針、投稿原稿の査読状況等について審議を行った。

水道 GLP 認定証授与式（2月20日）

水道 GLP 認定委員会で認定更新が決定した岡山県広域水道企業団（認定番号：JWWA-GLP102）の水質検査機関の認定証授与式を日本水道協会理事長室において行った。



第35回 ISO/TC224上水道国内対策委員会（2月25日）

はじめに、事務局より前回（第34回）議事要旨の確認について報告を行い、続いてWG1（語彙）、WG6（アセットマネジメント）、WG7（危機管理）、WG12（水の効率管理）、WG15（スマート水管理）の各WGに関する報告が行われた。

